

2022 年度

千葉大学

亥鼻地区の全員留学の支援

に係る活動報告

2023 年 3 月

## 目次

1. 活動概要 .....	1
1.1. 目的.....	1
1.2. 内容（資料1） .....	1
2. 留学支援に係る活動.....	1
2.1. 千葉大学から海外へ .....	1
2.1.1. 亥鼻地区の実施状況.....	1
2.1.2. 部局別活動状況.....	1
2.1.3. オンラインプログラム MOOCs の受講支援・報告会（資料2～4） .....	3
2.2. 海外から千葉大学へ .....	3
2.3. 学修支援 .....	4
2.3.1. 亥鼻地区留学支援サイト（ホームページ）の開設（資料5） .....	4
2.3.2. 留学準備／英語学修のための図書の貸出（資料6） .....	4
3. 調査・研究.....	4
3.1. 学生対象調査の実施（資料7～8） .....	4
3.1.1. 令和3年度調査の結果分析と報告.....	4
3.1.2. 令和4年度調査の実施.....	4
3.2. 留学関連の情報収集と研究（資料9～13） .....	5
3.2.1. セミナーの開催.....	5
3.2.2. 研究発表等 .....	6
4. 名簿・活動スケジュール .....	6
4.1. 定例ミーティング.....	6
4.2. 亥鼻地区ENGINE推進WG・サブWG.....	6
4.2.1. 委員名簿.....	6
4.2.2. 活動スケジュールと議題 .....	7
4.3. 2022年度年間活動スケジュール .....	8

<資料>

【資料 1-1】	令和 4 年度 ENGINE「全員留学」の取り扱いについて（学部生） .....	9
【資料 1-2】	令和 4 年度 ENGINE「全員留学」の取り扱いについて（大学院生） .....	10
【資料 2】	大学院共通オンラインプログラム（MOOCs, OpenWHO）の受講マニュアル ...	12
【資料 3】	MOOCs 受講者成果報告会発表スライド作成要領 .....	17
【資料 4】	第 4 回 MOOCs 受講者成果報告会（令和 4 年度前期）の開催 .....	18
【資料 5】	亥鼻地区留学支援サイト トップページ .....	19
【資料 6】	留学準備／英語学修のための図書利用案内 .....	20
【資料 7】	令和 3 年度留学プログラム履修生を対象とした調査の結果 .....	21
【資料 8-1】	令和 4 年度留学プログラム履修生を対象とした調査の概要 .....	24
【資料 8-2】	学生を対象とした留学に関する意識調査の回答結果 .....	27
【資料 8-3】	学生を対象とした留学アンケート（BEVI）の回答結果 .....	42
【資料 9】	「全員留学」による学びの成果をどのように評価するか Dr. Shealy 来日セミナーの開催 .....	58
【資料 10】	第 27 回留学生教育学会（JAISE）年次大会発表資料 .....	59
【資料 11】	国際教育夏季研究大会（SIIEJ 2022）発表資料 .....	71
【資料 12】	大学教育学会 2022 年度課題研究集会発表資料 .....	81
【資料 13】	日本国際教養学会第 11 回 JAILA 全国大会発表資料 .....	82

## 1. 活動概要

### 1.1. 目的

本学亥鼻地区において、グローバル人材育成“ENGINE”における全員留学の実施および留学生の受入れの双方を円滑に実施することを目的とする。

### 1.2. 内容

亥鼻地区では、各部局が連携して「全員留学」を推進していくために、学務課と担当教員が定例ミーティングをおこない、留学支援業務を運営した。

当該年度の留学支援担当の主な活動は、亥鼻地区 ENGINE 推進 WG およびサブ WG の開催を通じた各部局における留学プログラム実施支援、国際未来教育基幹国際教育センターの留学生派遣推進部会および専門員会への出席、留学生課との連携による「全員留学」関連情報の収集・整理・発信である。【資料 1-1】【資料 1-2】

## 2. 留学支援に係る活動

### 2.1. 千葉大学から海外へ

#### 2.1.1. 亥鼻地区の実施状況

2022 年度前期から、大学が安全を確認できるものについては短期の海外渡航が可能となり、亥鼻地区の学生は、全学募集および部局独自の渡航留学プログラムを履修した。一方で、新型コロナウイルス感染症の状況ならびに世界情勢を考慮し、令和 3 年度以前の入学者と令和 4 年度入学者の一部の学生を対象に、オンライン留学プログラムが留学代替措置として継続された。亥鼻地区からも多くの学生がオンライン留学を選択した。

#### 2.1.2. 部局別活動状況 ※主な活動のみ記載

##### 【医学部】

医学部では、ハワイ大学の SimTiki シミュレーションセンターにおいて、SimTiki Visiting International Medical student Program(VIMS)（ハワイ大学シミュレーション研修プログラム）を実施し、2022 年 12 月 2 日～9 日まで医学部 5 年生 6 名が参加した。これは、ハワイ大学ジョン・A・バーズ医学部（アメリカ）との交流プログラムで、シミュレーターを使ったケーススタディ、ショックシナリオや医学英語のチーム研修を実施した。マネキンは大人モデルだけでなく乳児モデルも用いて気管挿管トレーニングやケーススタディをおこない、超音波検査トレーニングもおこなった。

##### 【薬学部】

薬学部では、中国やタイの複数の大学と部局独自プログラムを用意している。2022 年 10 月～11 月と 2023 年 2 月～3 月にかけて薬学部 4 年生 2 名がチュラロンコーン大学（タイ）へ留学し、先方の研究室にて研究活動をおこなった。また、タイ・バンコクにある教育研修会社 Sophia Global Education and Discovery Co., Ltd. (SophiaGED)により開発されたオンライン薬学留学プログラムを 2023 年 2 月 2 日～12 日の 11 日間開催し、薬学部 2 年生 9 名が受講した。オンライン薬学留学プログラムでは、マヒドン大学薬草園のビデオツアー・専門家レクチャー、タイ古式マッサージ体験ワークショップ、地方の人々の生活や文化を知る - 北部タイ山岳少数民族の学生によるセッション・学生交流など多彩なプログラムを提供した。

### 【看護学部】

看護学部では、オンラインおよび渡航留学プログラムを複数実施した。オンラインプログラムとして、ライプチヒ大学（ドイツ）の助産学科学生と千葉大学看護学部学生との2022年度前期の交流プログラムを5月19日、6月8日、6月9日に実施し、看護学部学生6名が成果発表会に参加した。また、香港国際看護フォーラム（オンライン）が2022年11月30日～12月2日開催され、看護学部学生4名がポスター発表をおこなった。渡航を伴うプログラムとして、アラバマ大学（アメリカ）とのCOILプログラム（テーマ「COVID-19パンデミック時代の看護学生のメンタルヘルス」）を実施し、2023年2月26日～3月10日まで看護学部学生16名が留学した。また、シンビオシス国際大学（インド）とのGRIPプログラム（テーマ「難しい状況にある子どものケア・サポート」）に、2023年2月13日～23日まで看護学部学生3名が留学したほか、台北医学大学（台湾）の春季プログラムに、2023年3月13日～24日まで看護学部学生3名が留学した。

### 【医学薬学府（医学領域）】

医学薬学府では、グローバルに活躍する人材輩出の促進を目的として、スイス（ジュネーブ）とドイツ（ベルリン）の2か国にて、予防医学センター主催 海外研修プログラムをおこなった。スイスでの研修は9月20日～23日の日程でおこなわれ、11名の大学院生（医学薬学府、看護学研究科所属）が参加した。研修では、WHO（世界保健機関）、UNHCR（国連高等難民弁務官事務所）、UNITAR（国連訓練調査研究所）、IFRC（国際赤十字・赤新月社）、MSF（国境なき医師団）、UNEP（国連環境計画）、在ジュネーブ日本政府代表部を訪問し、世界で活躍する日本人職員の方と交流した。ドイツでの研修は9月26日～29日の日程でおこなわれ、13名の大学院生（医学薬学府、看護学研究科所属）が参加した。研修では、シャリテ医科大学と共同集中講義を開催し、「環境問題と新規感染症」をテーマとして、シャリテ医科大学の教授・学生たちとディスカッションをおこなった。また、「森鷗外没後100年記念シンポジウム」に参加した。

### 【医学薬学府（薬学領域）】

部局独自プログラムとして、チュラポーン大学院大学（タイ）への1～2ヶ月間での研究留学プログラム：Master Student Training Experience in Pharmaceutical Sciences (M-STEPS) ENGINE Program at Chulabhorn Graduate Institute (CGI), Thailand.が認定され、有機化学系の研究室から4名の大学院生が先方の研究室に留学し、研究をおこなった。また、2月6日、7日の日程にて、チュラポーン研究所・大学院大学（タイ）の研究者、学生をそれぞれ6名、2名招聘し、第3回のCRI-CGI-Chiba Symposium in Chemistryを開催した。その間、化学系のみならず、生物系の研究者間でも交流し、今後の交流拡大に向けた議論をおこなった。

### 【看護学研究科】

2022年度は文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」である「グローバル地域ケアIPE+創生人材の育成（Global & Regional Interprofessional Education Plus Program）」（GRIP Program）の初年度であり、看護学研究院が主となって学生派遣を実施した。看護学研究科

の2名を含む国際教養学部、看護学部、医学部、薬学部の学生計10名が協定大学であるインドのシンビオシス国際大学（SIU）に2023年2月に約10日間滞在し、GRIPの核となる「専門職間社会課題解決演習」として、健康関連の社会課題にチームとなって取り組んだ。現地演習後は、オンラインでSIUと合同の学習成果発表会を実施した。その他、本研究科より、SIUのオンラインプログラム（異文化看護演習：インドの生活と保健医療システム、2022年8月実施）に7名、千葉大学予防医学センター海外研修プログラム（スイス・ジュネーブ、WHO・在ジュネーブ日本政府代表部・UNHCR等訪問、2022年9月実施）に2名の学生が参加した。

### 2.1.3. 大学院生オンラインプログラム MOOCs の受講支援・報告会

2022年度の「全員留学」オンライン留学プログラムの実施通知を受け、亥鼻地区では、大学院生を対象にMOOCsの受講支援をおこない、昨年度と同様に、亥鼻地区独自「MOOCs受講者成果報告会」を3部局合同で開催した。報告会では、学生がMOOCsで学修した内容を英語でスライドにまとめ、英語で発表をおこなった。

- ・MOOCs受講マニュアルの改訂【資料2】
- ・MOOCs受講者成果報告会発表スライド作成要領の作成【資料3】
- ・第4回MOOCs受講者成果報告会（令和4年度前期）の開催【資料4】

日時：2022年9月29日（木）13：00-15：40

開催方法：対面式で開催

開催場所：亥鼻キャンパス 医学系総合研究棟4階 セミナー室1

発表者：修士1年2名（医科学専攻1名、看護学研究科1名）、修士2年2名（総合薬品科学専攻2名）、博士2年2名（先端医学薬学専攻：薬2名）、博士3年3名（先端創薬科学専攻：2名、：1名） 合計9名

出席者：学生（発表者含む）、教職員 合計17名

発表方法：スライド10枚以内の発表資料を英語で作成し発表も英語でおこなった。1人10分間の発表と続けて5分間の質疑応答をおこなった。発表者は、ほかの発表者全員に対してコメントシートを記入した。

## 2.2. 海外から千葉大学へ

2022年度は、日本政府による新型コロナウイルス感染症に関する水際対策の緩和に伴い、海外協定校等との交流や新規留学生の受入れを再開した。日本政府（厚生労働省）による「水際対策強化に係る新たな措置（27）」（令和4年2月24日）に基づき、令和4年3月1日以降、大学が行動制限に責任を持つことを前提に、外国人の新規入国制限の緩和措置が実施されたことを受け、入国待機を余儀なくされていた海外在住の外国人留学生の受入れを再開した。その後、「同措置（28）」（令和4年5月20日）、「同措置（31）」（令和4年8月25日）等の発出に伴い、新型コロナウイルスワクチン接種証明書の所持確認、入国時の待機ホテル手配等必要なサポートを適宜おこないながら留学生受入れを実施した。また、「同措置（34）」（令和4年9月26日）によって、外国人の新規入国制限の見直しがされたことから、部局独自の研究交流や学生交流プログラムを通じて、本学亥鼻地区でも外国人研究者や学生の受入れを再始動した。

## 2.3. 学修支援

### 2.3.1. 亥鼻地区留学支援サイト（ホームページ）の開設

亥鼻地区では、2020年度より亥鼻地区ENGINE推進WGを発足し、“ENGINE”「全員留学」を通じたグローバル人材育成に取り組んできた。本学亥鼻地区の「全員留学」に係る学生支援を充実させるとともに、実施事例を学内外に発信し、本学の“ENGINE”成果の一部を広報することを目的に、「亥鼻地区留学支援サイト」(<https://www.ryugaku.chiba-u.jp/inohana/>)を新たに開設した。同ホームページは、留学生課留学支援室のホームページ(<https://www.ryugaku.chiba-u.jp>)下部に設置され、2022年12月23日に公開した。亥鼻地区の部局独自留学プログラムの案内、留学相談の受付、留学関連図書の貸出案内のほか、亥鼻地区独自開催のMOOCs受講者成果報告会の案内、医療系学部・大学院を有する亥鼻地区の特性に即した留学の評価や取り組み事例を対外的に発信している。【資料5】

### 2.3.2. 留学準備／英語学修のための図書の貸出

留学準備／英語学修支援として、亥鼻地区の全学生を対象に留学準備や英語学修のための図書の予約受付と貸出業務を実施した。【資料6】

## 3. 調査・研究

### 3.1. 学生対象調査の実施

#### 3.1.1. 令和3年度調査の結果分析と報告

令和3年度に実施した留学に関する意識調査および留学事前・事後アンケート（BEVI）の結果を分析し、学生の意識・価値観とコンピテンシーの関連について検討した。【資料7】

#### 3.1.2. 令和4年度調査の実施

「全員留学」の効果や成果を検討するために、学生を対象にアンケート調査をおこなった。本年度は、留学プログラム履修生を対象として、前期（第1～3ターム）と後期（第4～6ターム）のプログラム参加前後に、留学に関する意識調査と国際的な心理テストBEVIを用いたアンケート調査を実施した。また、前期の履修生を対象に留学プログラムに関するインタビュー調査を実施した。

#### ・【前期履修】アンケート調査の実施

対象：亥鼻地区における令和4年度前期の留学プログラム履修生

（学部生約130名、修士/博士前期課程および博士課程 約70名）

調査期間：

①履修前アンケート 2022年7月22日（金）～10月15日（土）

②履修後アンケート 2022年11月14日（月）～2023年2月28日（火）

回答数：

①履修前アンケート 留学に関する意識調査 47件（回収率 約2割）

留学アンケート（BEVI） 19件（回収率 約1割）

②履修後アンケート ※履修前アンケート回答者を対象に調査依頼

留学に関する意識調査 27件（回収率 履修前回答数の5.7割）

留学アンケート（BEVI）12件（回収率 履修前回答数の6.3割）

・【後期履修】アンケート調査の実施

対象：亥鼻地区における令和4年度後期の留学プログラム履修生

(学部生 約90名、修士/博士前期課程および博士課程 約50名)

調査期間：

①履修前アンケート 2022年12月15日(木)～2023年3月24日(金)

②履修後アンケート 2023年3月6日(月)～2023年4月28日(金)(予定)

回答数：

①履修前アンケート 留学に関する意識調査28件(回収率 約2割)

留学アンケート(BEVI)30件(回収率 約2割)

②履修後アンケート ※履修前アンケート回答者を対象に調査依頼中

・【前期履修】インタビュー調査の実施

対象：亥鼻地区における令和4年度前期の留学プログラム履修生

(学部生6名、修士/博士前期課程および博士課程3名)

調査期間：2022年11月24日(木)～2023年3月22日(水)

・令和4年度前期留学プログラム履修生を対象とした調査の概要【資料8-1】

・学生を対象とした留学に関する意識調査の回答結果(前期)【資料8-2】

・学生を対象とした留学アンケート(BEVI)の回答結果(前期)【資料8-3】

### 3.2. 留学関連の情報収集と研究

令和3年度と4年度に実施した学生対象調査の研究成果について、セミナー開催や学会発表を通じて、広く学内外に公開した。

#### 3.2.1. セミナーの開催

亥鼻地区で2020年度より実施してきた学生の特性や心理・価値観を客観的に測定するBEVIテストの開発者であるDr. Craig Shealyと日本におけるBEVI推進者の西谷元広島大学特命教授を基調講演者とした留学評価に係るセミナーを開催した。【資料9】

<「全員留学」による学びの成果をどのように評価するか—Dr. Shealy 来日セミナー>

主催：千葉大学亥鼻地区ENGINE推進WG・留学支援担当

後援：千葉大学アカデミック・リンク・センター

日時：2022年9月14日(水)13:30-16:10

開催方法：対面式とZoomによるオンラインの同時開催

開催場所：西千葉キャンパス コンテンツスタジオ「ひかり」(附属図書館本館I棟)

演者：

(基調講演) Craig N. Shealy International Beliefs and Values Institute (IBAVI) 代表  
西谷 元 広島大学高等教育研究開発センター特命教授

(実践報告) 大西好宣 千葉大学国際未来教育基幹 教授

松本暢平 千葉大学国際未来教育基幹 助教

中村絵里 千葉大学未来医療教育機構 特任助教

参加者：千葉大学教職員 44 名、学外大学教職員および学生 39 名、学外企業団体 8 名  
合計 101 名

### 3.2.2. 研究発表等

亥鼻地区で実施している留学の効果に関する学生調査の概要や分析結果について、留学生教育学会（JAISE）年次大会、国際教育夏季研究大会（SIEJ2022）、大学教育学会課題研究集会、日本国際教養学会全国大会で発表した。

- ・中村絵里「オンライン留学の学習効果の検討—千葉大学「全員留学」代替プログラムの事例」留学生教育学会第 27 回 JAISE 年次大会（2022 年 8 月 20 日）【資料 10】
- ・中村絵里「客観的測定の結果の活用：グッドプラクティスの紹介（千葉大学）「全員留学」をもたらすインパクト—学生の意識・価値観の客観的評価事例」国際教育夏季研究大会（SIEJ 2022）（2022 年 8 月 27 日）【資料 11】
- ・大西好宣・中村絵里・松本暢平・伊藤彰一「留学プログラムを通じたグローバル・コンピテンシーの評価手法の検討」大学教育学会 2022 年度課題研究集会（2022 年 11 月 26 日）【資料 12】
- ・中村絵里・大西好宣・松本暢平・伊藤彰一「超短期留学を経験した医療系学生の海外志向の変容—全員留学を掲げる千葉大学の事例」日本国際教養学会第 11 回 JAILA 全国大会（2023 年 2 月 18 日）【資料 13】

## 4. 名簿・活動スケジュール

### 4.1. 定例ミーティング

亥鼻地区の留学支援業務に係る定例ミーティングを、月 1 回から 4 回不定期で実施し、2022 年度中に合計 25 回開催した。定例ミーティング参加者は、以下の表のとおり。

部局	職名	氏名
医学研究院	教授	伊藤 彰一
未来医療教育研究機構	特任助教	中村 絵里
亥鼻地区事務部学務課	課長	戸田 貴子
	副課長（大学院）	栗山 要
	副課長（学部）（2022 年 9 月 30 日まで）	金野 宏明
	副課長（学部）（2022 年 10 月 1 日から）	古場 義文

### 4.2. 亥鼻地区 ENGINE 推進 WG・サブ WG

亥鼻地区 ENGINE 推進 WG を 6 月と 3 月に、サブ WG を 9 月と 12 月に開催した。

#### 4.2.1. 委員名簿

部局	職名	氏名	所属する学内の留学関連組織
医学部	教授	◎伊藤 彰一	国際教育センター ↳ 運営会議 ↳ 派遣推進部会 ↳ 短期留学支援専門委員会 (副委員長)

	特任助教	稲川 知子	
薬学部	教授	石橋 正己	
	教授	小椋 康光	国際教育センター ↳受入推進部会 ↳留学生支援専門委員会
看護学部	教授	北池 正	
	助教	Casenove David	
医学薬学府（医）	教授	池原 譲	
	教授	清水 栄司	
医学薬学府（薬）	教授	伊藤 晃成	
	教授	根本 哲宏	
看護学研究科	教授	手島 恵	
	講師	野崎 章子	
未来医療教育研究機構	特任助教	中村 絵里	国際教育センター ↳派遣推進部会 ↳短期留学支援専門委員会

◎ = 亥鼻地区 ENGINE 推進 WG 長

#### 4.2.2. 活動スケジュールと議題

	日時	議題
第1回 WG	2022年6月2日（木） 14:30-15:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2021年度活動報告</li> <li>● ENGINEプログラムの運営体制</li> <li>● 第4回 MOOCs 受講者成果報告会（令和4年度前期）の実施概要の確定</li> </ul>
第1回 サブWG	2022年9月1日（木） 16:00-16:35	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第4回 MOOCs 受講者成果報告会（令和4年度前期）の実施要項と参加者確定</li> <li>● 亥鼻地区留学支援サイト新規開設</li> <li>● 「全員留学」による学びの成果をどのように評価するか—Dr. Shealy 来日セミナー概要</li> </ul>
第2回 サブWG	2022年12月1日（木） 16:00-17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第5回 MOOCs 受講者成果報告会（令和4年度後期）の実施概要の確定</li> <li>● 亥鼻地区留学支援サイト公開</li> <li>● 部局独自留学プログラム（GRIP）</li> <li>● 令和4年度全学募集留学プログラム履修状況</li> </ul>
第2回 WG	2023年3月7日（火） 13:00-13:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2022年度活動報告の初稿の検討</li> <li>● 留学ガイドブック（亥鼻キャンパス）の改訂</li> <li>● 次年度の活動内容、日程</li> </ul>

### 4.3. 2022 年度年間活動スケジュール

2022 年 度	活動					学修支援		調査・研究	
	亥鼻地区 ENGINE 推進 WG・ サブWG	国際教育 センター 運営会議	国際教育 センター 留学生派遣 推進部会	国際教育 センター 留学生派遣 推進部会 短期留学支 援専門委員 会	国際教育 センター 留学生受入 推進部会	MOOCs 受講支 援・報 告会	亥鼻地 区留学 支援サ イト	学生対 象調査 の実施	留学関 連の情 報収集 と研究
4月			◎			↑		↑	↑
5月				◎				前年度調査	
6月	◎		◎					↓	
7月		◎		◎			↑	↑	
8月								前期調査	研究発表
9月	◎		◎		◎	報告会			セミナー
10月				◎					
11月				◎					研究発表
12月	◎	◎					公開	後期調査	
1月									
2月			◎		◎	↓			研究発表
3月	◎						↓	↓	↓

◎ WG・サブWG・運営会議・部会・専門委員会